

岐阜県博物館協会加盟館の閉館リストと収蔵物の移動について 文化財レスキューのための所在調査に関連して

Creating the List and Overview of closed museums in Gifu Museum Association and
Fluctuation of their collections: A Step toward investigation for cultural properties rescue

南本有紀¹

Yuki Minamimoto¹

¹岐阜県博物館

要旨

岐阜県博物館協会が刊行した名簿から館園をリストアップし、閉廃館した施設を抽出、その後の館蔵資料の推移を調査してまとめた一覧表を作成した。

過去の加盟館リストによれば、当県では自然系私立館が、1970年代前半、草創期の県博物館業界を率先し、県博物館協会でも私立館や個人会員の活躍が見られたこと、その後、70年代後半～2000年代前半までの公立館優勢を経て、平成20年代以降の博物館冬の時代に、多くの私立館が閉館したことが判明した。これらの閉館施設の所蔵品のうち、学術的に価値のある優れたコレクションは県内外の博物館・研究機関へ引き継がれている。

以上の県内所在文化財移動の把握は、未指定文化財の所在調査と同様、今後、博物館・文化行政の危機管理の一環として情報収集・集積されることが望ましい。

はじめに

2016年は岐阜県博物館協会創立50周年、かつ、岐阜県博物館開館40周年のメモリアルイヤーであった。逆算すると、今から40～50年前の1970～80年代、博物館設立ラッシュの時代に岐阜県博物館も開館（1976）し、かつ、県内でも多くの博物館が誕生し、組織化されたのである。当時の証言に、「わが国では、ここ数年来、毎年50館前後の博物館、美術館、資料館（中略）が建設されている。たとえば、昭和52年度に50館、昭和53年度に47館が開館している」¹とある。この時期は、明治100年（1968）、置県100年（岐阜県の場合、1972）を機縁に地方公立博物館の建設が相次ぐ時代であった。続く80年代後半から90年代初めのバブル経済期とその後しばらくは、公立館に加え、多くの私立・企業博物館が陸続と誕生した²。岐阜県では、前述の県博物館以降、県美術館（1982～）、高山陣屋（～1969県事務所として使用、1996復元）、県先端科学技術体験センター（サイエンスワールド、1999～）、飛騨・世界生活文化センター（飛騨センター、2001～）、県現代陶芸美術館（2002～）、県世界淡水魚園水族館（アクア・トトぎふ、2004～）が開館している。

翻って、2000年代以降、とくに平成20年代の博物館は冬の時代といわれて久しい。ちょうど10年前（2008）には、日本博物館協会の調査によると増え続けてきた博物館数が戦後初めて減少したと報道されて

いる³。文部科学省の社会教育調査⁴によれば、昭和62年（1987）以来、増加の一途だった博物館（登録博物館・博物館相当施設・博物館類似施設）数が、平成23年度に減少に転じ（5,747館で前年より28館減）、27年度の中間報告ではさらに減少している（5,683館で64館減）。入館者数も、全体では増え続けているものの、それを上回る勢いの館数増加が相殺して、1館あたりの入館者数は昭和61年（1986）以来ずっと減り続けている。全体として、現在の博物館業界は停滞もしくは減退の気運に包まれているといえるだろう。野放図な増設とマーケティング（利用者研究・評価）の不備に加えて社会情勢（不景気、少子高齢化）など内外の要因が想起されるが、こうした情勢下、岐阜県では、行財政改革の結果、県ミュージアムひだ（飛騨センター内博物館のみを2006県教委に移管）が閉館（2011）⁵、サイエンスワールド（2006～）、アクア・トトぎふ（2004開館より）⁶で指定管理者制度が導入された。

さて、50周年を迎えた岐阜県博物館協会には2017年1月現在122館園が加盟しているが、数年前の2015年度は127館であった。わずか数年で着実に減少している。最近では、2017年1月に1館（3月現在、不定期で開館）、2016年1月にも1館が閉館のため退会している。当該施設は両館とも私立館で、廃止理由は、館主の高齢化と寒冷地でのコレクション保管の困難さなど「多数ある」由であった。加盟館以外でも2000年に入ってから

活動を休止する館⁷が目につくようになってきた。今回、50周年を機に立ち上げられた県博協プロジェクト⁸のひとつに加わり、この半世紀に多くの館園が協会に参加し、そして、脱退（もしくは消息不明）していったようを知る事ができた。当県の博物館事情をまとめることで、文化財の置かれた状況の一端をうかがえればと思ひ、その概要を以下に記す。

1 岐阜県内の博物館の特徴

はじめに、岐阜県内の博物館の概況についてまとめておこう。表1⁹で、現在の県内博物館の種類別の割合（平成26年度）を示した。

表1-1 岐阜県内の博物館（種類別）

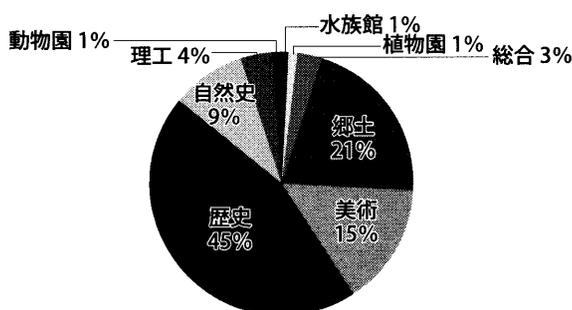
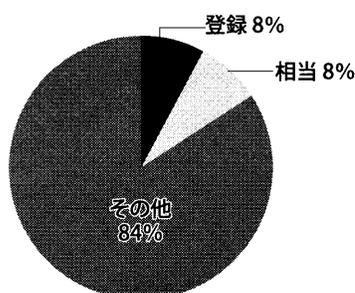
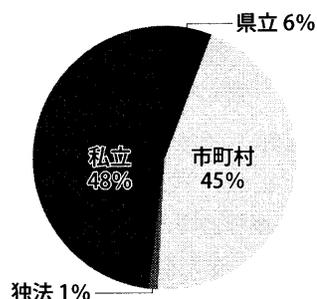


表1-2 岐阜県内の博物館（博物館法区分別）



日本博物館協会のアンケート調査（平成25年度）によれば、全国の館園のうち館種別割合（%），総合4.8、郷土12.6、美術20.9、歴史46.4、自然史4.1、理工4.6、動物園1.9、水族館2.3、植物園1.8、動水植0.5¹⁰と比べて、県内では歴史系は全国並み、美術系が少なく、郷土系・自然史系が多くなっている。注目されるのは登録博物館（全国平均27.7）・相当施設（10.4）の割合が少なく、8割以上がその他（類似施設）であることだ。この調査では都道府県毎の設置者別数が示されていないため断言できないが、その多くが私立館であると想定される。というのも、自然系の個人博物館が多いことが当県の特徴といえるからだ。県博協の現加盟館（表2）¹¹では、約半数が私立館である（全国平均は22.4）。

表2 岐阜県博物館協会加盟館（設置者別）



先に紹介した報道記事¹²では博物館冬の時代の要因について主に公立館を取上げて考察し、施設の乱立と平成の大合併による類似館の重複を指摘、加えて、博物館整備を後押しした国の施策¹³を「建設優先 理念後回し」と難じている。経営感覚の欠如など、指摘はいちいちごもっともで公立館に勤務する当事者のひとりとして反省させられる点も少なくないが、岐阜県の場合、博物館閉館の事情はやや異なると思われる。即ち、創立50年記念誌¹⁴によると、岐阜県内の博物館（県博協加盟館）は、私立館が公立館に率先して開館しており、その組織化を主導したのも私立館や個人会員であった。博物館を取り巻く社会環境は共有しつつも、自ずと、開館・閉館の理由も上記公立館とは異なってくるのだ。

次節で、岐阜県博物館協会の加盟館のうち閉館した施設のリストを示し、具体的に見ていこう。

2 閉館リスト

過去の加盟館の閉館状況を整理しようと考えたのは、県博協個人会員の今井雅巳の提言に触発されたからだ。数十年前に県博協から刊行された名簿に掲載された館園のうち少なからぬ施設が閉館しており、その所蔵品の行方が気かりである、県博協で散逸が懸念される文化財群を追跡調査すべきではないかという意見であった。

阪神淡路大震災（1995）、新潟県中越地震（2004）、中越沖地震（2007）、東日本大震災（2011）、熊本地震（2016）と、災害発生の度に文化財レスキューの思想とハウツーが普及してきた。現在では、非常時（発災後）に対症療法的に対応するのではなく、文化財保護施策においても防災・減災を目指すべきだとされている。つまり、予想される災害への日頃の備えを重視する考え方である。文化財の防災についていえば、存在が周知され、対応が取られやすい指定文化財よりも、むしろ、未指定品の所在を把握することが急務になっている¹⁵。ここ数年、各地で文化財レスキューの体制づくりが散見¹⁶される一方、平時（発災前）における関係機関どうしの連携と文化財調査（所在現状把握）の重要性が見直され

てきたのである。活動の主体は「災害が起きた後」よりも「災害が来る前の保全活動」¹⁷にシフトしつつある。

とはいえ、勤務館での本務外に、地域に乗り込んで膨大雑多な文化財の悉皆調査¹⁸を始めるのは、正直、荷が重いというのが偽らざる気持ちである。県内閉館館の確認作業は、県内文化財の状況把握のための作業として、とりあえず何かを始めるきっかけとしてちょうどよいように思えた。そこで、これまでに刊行された県内館園名簿10種（文末の文献リスト中、*を付した）と現加盟館リストから延べ582館園をリストアップし、うち重複するものや、現在も活動が確認できたものを除き、閉館が疑われる73施設を抽出したのが、表3（10～11ページに掲載）である。

これらの73館園から、設置者を見ると、表4のごとくである。名簿からは設置者の別が判然としなかったが、不明分には多くの私立館が含まれると思われる。館種では、歴史・郷土系が約半数に留まり（前出の日博協調査では、全国平均 歴史46.4%，郷土12.6%），自然系が全国的な傾向（同4.1%）に対して全体の1/4以上という高い比率を占めている。前述の県内博物館の特徴が反映された結果といえよう。

表4-1 全館園：設置者別

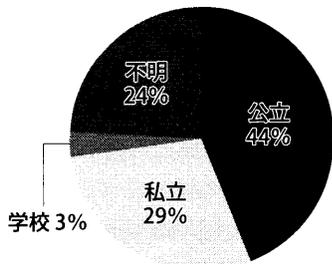
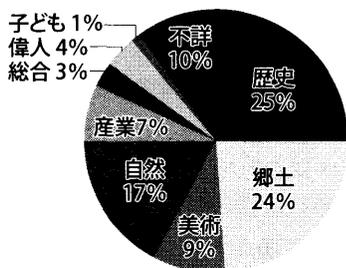


表4-2 全館園：館種別



さらに、表3から、名称の差異で重複が認められるもの、後継館による活動継承が想定されるものを除くと66施設の閉館がほぼ確認できた。これらの所在地を見ると、現加盟館（表5、岐阜県博物館協会HPより作成）と比べると、岐阜・飛騨地域に立地した館園がやや多く、自然系・私立館（不詳の多くが私立館と思われる）が目立つ結果となった（表6）。

表5 現加盟館の所在地

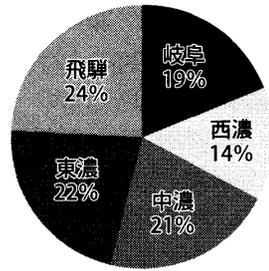


表6-1 閉館施設の所在地

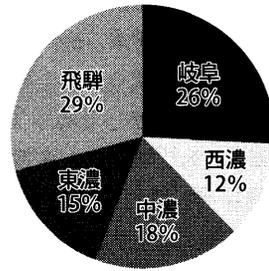


表6-2 閉館施設の館種

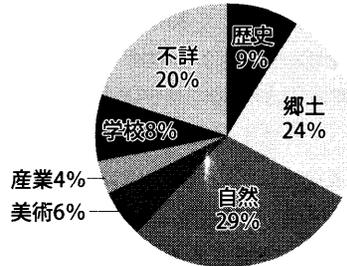
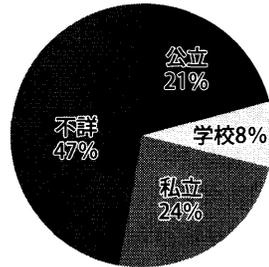


表6-3 閉館施設の設置者



以上のグラフと表3からうかがえる点をまとめると、岐阜県の博物館界では、草創期に多くの私立館が活躍し、とくに自然系の個人コレクションが積極的に公開されていたこと、歴史・郷土系私立館の多くは、恐らく観光施設¹⁹であったこと、前者の多くが岐阜地域に、後者の多くが飛騨地域に所在していたことが推測される。想像するに、これらの施設は、社会情勢の変化（博物館冬の時代）に加え、コレクターの世代交代等、個々の事情によって活動継続が困難に陥り、大半がひっそりと役割を終えたと思われる。それでも、学術的に価値の高いコレクションは、他館や研究施設に引き継がれている（表3「コレクション移管状況など」欄を参照）ことが一縷の希望といえよう。

おわりに

文化財レスキューや防災は、東日本大震災以降、博物館業界では現在ホットな話題のひとつである。前者は被災文化財の緊急避難や一時保管などの一次的な処理が一段落し、現在は、安定化処理や展覧会・シンポジウム²⁰など、二次的な局面に差し掛かっている。今後は、後者、即ち、平常時の活動（防災対策）に比重が移っていくだろう。社会的には「復興」や「啓発」に果たす博物館の役割も期待されている²¹。

当然ながら、博物館にも危機管理は必須である。近年相次ぐ災害や異常気象が、将来の被災を、現実味を帯びて想像させ、防災意識の高まりの中、館園のBCP（事業継続計画）の策定は待たなしである²²。岐阜県博物館でも消防訓練を毎年実施している。筆者が見学してきた中では、岐阜県美術館で、消灯した展示室内で負傷者を台車に乗せて救助するような実践的な訓練²³を実施して啓発された。神奈川県博物館協会の図上訓練²⁴では、第1フェーズ；地震・津波発生→対策組織立ち上げ、情報収集・把握、第2フェーズ；初期レスキュー実施と受援体制構築の二段階に分けて、ブロック幹事館と現地対策本部・総合対策本部が情報を集約・共有する実際の訓練が行われていた。

岐阜県博物館協会でも、東日本以前の情報ながら防災対策をまとめた冊子²⁵を作成したほか、加盟館被災時に協会内で互助活動が実施できるように協会規約を一部改正（2016）し、将来の災害発生に備える体制づくりを進めていくべく検討されている。今後はそれぞれの立地や環境から想定される災害に合致した具体的な対策と訓練が必要だろう。海がない（津波被害がない）反面、日本有数の活断層を抱える海拔0～3000メートルの平野（水害）から山岳地帯（土砂災害）までの多様な県土の特性を考えると、独自メソッドの策定が急がれる。

ところで、「当該博物館の所在地又はその周辺にある文化財保護法の適用を受ける文化財」（博物館法第3条8項）をも保護対象に含める登録博物館はもちろん、文化行政を担う県教委では、（相当な困難が想定されるだろうが）館藏品や指定文化財以外の膨大な未指定文化財にも目配りすべきだろう。その意味で、京都府が導入を試みている未指定文化財から「指定予備群」を選定し、修復費用を助成する制度²⁶は、未知の文化財の掘り起こしと保護という点で平時の防災施策と発想を同じくするもののように思える。

今回のピックアップ作業は、確認・追跡調査が徹底せず、暫定的なリストに留まるが、地域に所在する文化財・文化財群の情報集積、さらには将来的な文化財レスキューにおける活動計画時にその所在情報を反映した防

災プラン策定の一助となれば幸いである。

謝意

本稿執筆に当たり、岐阜県博物館協会創立50周年記念事業企画委員会（可児光生会長）「たかめる部会」（正村美里部会長）の皆様をはじめ、多くの方にご指導賜りました。記して謝意を表します。文中では敬称を省略いたしました。なお、閉館リストを始め本稿に記載された内容の不備は、全て執筆者によるものです。

文献（*表で参照したもの）

- * 岐阜県博物館. (1985). 岐阜県の博物館 美濃と飛騨の文化を訪ねて. 大衆書房.
- * 岐阜県博物館協会. ([1989]). 岐阜県の博物館 美濃と飛騨の自然・文化を訪ねてガイドマップ. 岐阜県博物館協会.
- * 岐阜県博物館協会. (1969). 岐阜県の博物館要覧. 岐阜県博物館協会.
- * 岐阜県博物館協会. (1974). 岐阜県の博物館施設一覧表. 岐阜県博物館協会.
- * 岐阜県博物館協会. (2007). 岐阜県の博物館・美術館129. 岐阜県博物館協会.
- * 岐阜県文化財保護協会. (1987). 岐阜県の博物館 前編 濃飛の文化財. 岐阜県文化財保護協会.
- * 宮崎惇. (1967年10月13日): 岐阜県の博物館. 岐阜日日新聞.
- * 宮崎惇. (1969). 岐阜県の博物館および類似施設一覧表.
- * 今井雅巳. (1988). 岐阜県の博物館120年の歩み 1 明治時代を中心に. 國學院大學博物館紀要 12, pp62-71.
- * 小野木三郎. (1976). 岐阜県の博物館要覧 昭和50年版. 岐阜県博物館協会.
- 「震災から復興」指名担う公共施設/博物館や図書館郷土史として後世に. (2016年5月11日). 岐阜新聞, ページ: 22.
- 株式会社江の島マリンコーポレーション. (日付不明). 株式会社江の島マリンコーポレーション. 参照日: 2017年1月31日, 参照先: アクアトト・ぎふ: <http://www.enoshimamarine.com/aquatotto.html>
- 岐阜県博物館協会. (2016.3.15). 岐阜の博物館 178.
- 岐阜県博物館協会. (2016.9.15). 岐阜の博物館 179.
- 岐阜県博物館協会. (日付不明). 加盟館園情報 (地区別一覧). 参照日: 2017年1月25日, 参照先: 岐阜県博物館協会: <http://www.gifu-museum.jp/>

member/list.html

- 岐阜県博物館協会中濃部会. ([2007]) . 博物館等の危機管理調査研究報告書. 岐阜県博物館協会.
- 原佳子. (2009) . 第2節 博物館の歴史. 著: 全国大学博物館学講座協議会西日本部会, 新しい博物館学 (第2刷) (ページ: p42) . 芙蓉書房出版.
- 佐藤泰. (2015) . 東日本大震災とミュージアム. 仙台・宮城ミュージアムアライアンス.
- 新井英夫・森八郎. (1980.6) . 新設博物館における生物学的問題. 家屋害虫 5・6.
- 神奈川県博物館協会. (2015.3) . 神奈川県博物館協会60周年記念事業 神奈川県博物館協会総合防災計画の策定に向けて. 神奈川県博物館協会会報 86.
- 西尾円. (2016) . 岐阜県の社会教育行政と博物館 明治から昭和・岐阜県博物館協会創立の時期まで. 著: 『岐阜県博物館協会創立50周年記念誌』編集委員会, 岐阜県博物館協会創立50周年記念誌 (ページ: pp17-25) . 岐阜県博物館協会.
- 西尾円. (2016) . 広瀬鎮と岐阜県博物館協会. 著: 『岐阜県博物館協会創立50周年記念誌』編集委員会, 岐阜県博物館協会創立50周年記念誌 (ページ: pp31-32) . 岐阜県博物館協会.
- 石田克. (2016) . 岐阜県博物館協会創立時の三役. 著: 『岐阜県博物館協会創立50周年記念誌』編集委員会, 岐阜県博物館協会創立50周年記念誌 (ページ: p30) . 岐阜県博物館協会.
- 千葉県博物館資料救済体系構築実行委員会. (2014年3月14日) . 千葉県博物館資料救済ネットワークの構築に向けて. 参照日: 2017年1月29日, 参照先: http://www.chiba-web.com/chibahaku/pdf/kyusai_01.pdf
- 村田真宏. (2016.12) . 美術館における総合的なリスク管理へ. 博物館研究 51-12, pp4-5.
- 地域活性化センター. (2006) . 指定管理者制度導入事例集2006. 地域活性化センター.
- 津波により被災した文化財の保存修復技術の構築と専門機関の連携に関するプロジェクト実行委員会. (2016) . 大津波被災文化財保存修復技術連携プロジェクト支援企画展. 陸前高田市立博物館.
- 土山公仁. (2016) . 初期の岐阜県博物館協会. 著: 『岐阜県博物館協会創立50周年記念誌』編集委員会, 岐阜県博物館協会創立50周年記念誌 (ページ: pp26-29) . 岐阜県博物館協会.
- 内田俊秀. (2009.5) . 5. 動産文化財の防災. 自然災害科学 28-1, pp32-37.
- 日本博物館協会. (2016.4) . 平成26年度博物館園数. 博物館研究 51-4, pp14-15.
- 日本博物館協会. (2017.1) . 平成25年度博物館総合調査の結果から. 博物館研究 52-1, p6.
- 博物館 閉館の波/財政難 戦後初の減少. (2010年4月18日) . 朝日新聞, ページ: 1-2.
- 飛騨高山印籠美術館が閉館. (2006年4月13日) . 岐阜新聞, ページ: 23.
- 浜田拓志. (2015.7) . 「和歌山県博物館施設等災害対策連絡会議」設立の経過と課題. 博物館研究 50-7, pp10-13.
- 文化財に「指定予備群」, 地域の宝守れ 京都府が修復助成. (2017年1月3日) . 京都新聞.
- 文化財防災ネットワーク推進事業 中部・近畿文化財関係者による文化財防災連絡会議. (2016年12月13日) . 京都国立博物館平成知新館講堂.
- 文部科学省. (登録: 平成21年以前) . 参照日: 2016年12月25日, 参照先: 社会教育調査 結果の概要: http://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/chousa02/shakai/kekka/1268528.htm
- 平川新. (2014) . 災害から歴史資料を守るため. 歴史研究 60, pp1-19.
- 平川新・佐藤大介・高橋修・奥村弘. (2014.10) . 資料保全から歴史研究へ. 歴史学研究 924, pp180-216.
- 揺れに強い構造知る手掛かりに 濃尾地震の建築被害紹介 名古屋で企画展. (2015年10月29日) . 中日新聞, ページ: 24.
- 和歌山県立博物館. (2015) . 先人たちが残してくれた「災害の記憶」を未来に伝えるⅠ. 和歌山県立博物館施設活性化事業実行委員会.
- 和歌山県立博物館. (2016) . 先人たちが残してくれた「災害の記憶」を未来に伝えるⅡ. 和歌山県立博物館施設活性化事業実行委員会.
- 訃報 五味輝一氏 (高山昭和館館長) . (2015年6月20日) . 岐阜新聞, ページ: 27.

注

¹ [新井英夫・森八郎, 1980.6]

² [原佳子, 2009]

³ [博物館 閉館の波/財政難 戦後初の減少, 2010]

⁴ [文部科学省, 登録: 平成21年以前]

⁵ 現在, 指定管理者が運営している施設内に後継施設が閉館している.

⁶ 岐阜県が設置し, 計画当初より江の島マリンコーポ

レーションの業務委託が予定されていたが、地方自治法改正を受け、指定管理者制度で運営。〔地域活性化センター, 2006〕〔株式会社江の島マリンコーポレーション〕によると、岐阜県のPFI事業（Private Finance Initiative）として三菱商事を代表とする出資企業が有限会社ジー・エフ・エー（特別目的会社）を設立、県と30年間の事業契約を締結して管理運営している。

⁷ 飛騨高山印籠美術館（〔飛騨高山印籠美術館が閉館, 2006〕）など。高山昭和館は所蔵者の急逝（〔訃報 五味輝一氏（高山昭和館館長）, 2015〕）で閉鎖が危ぶまれたが、市外の企業が施設を買収して運営を継承している。

⁸ 本稿は岐阜県博物館協会創立50周年記念事業策定のために県博協に設置された同事業企画委員会「たかめる部会」の基礎資料として作成したリストを基に執筆した。当該事業は加盟館対象に事業案を募集するなどして、①「のこす」②「ひろめる」③「たかめる」の3部会が、それぞれ①記念誌編集、②広域広報、③連携企画展示とミュージアム（文化財）レスキューネットワーク構築の各事業を実施した。詳細は〔岐阜県博物館協会, 2016.3.15〕および〔岐阜県博物館協会, 2016.9.15〕を参照。

⁹ 〔日本博物館協会, 2016.4〕より作成した。

¹⁰ 〔日本博物館協会, 2017.1〕

¹¹ 〔岐阜県博物館協会〕より作成。

¹² 前述3

¹³ 歴史民俗博物館建設補助（1970）、ふるさと創生事業（1988）を挙げている。他に、風土記の丘構想（1966）なども加えることができるだろう。

¹⁴ 〔西尾円, 岐阜県の社会教育行政と博物館 明治から昭和・岐阜県博物館協会創立の時期まで, 2016〕〔土山公仁, 2016〕〔西尾円, 広瀬鎮と岐阜県博物館協会, 2016〕〔石田克, 2016〕

¹⁵ 〔内田俊秀, 2009.5〕〔平川新・佐藤大介・高橋修・奥村弘, 2014.10〕

¹⁶ 例えば、千葉県博物館協会（〔千葉県博物館資料救済体系構築実行委員会, 2014〕）、神奈川県博物館協会（〔神奈川県博物館協会, 2015.3〕）、三重県教育委員会・三重県博物館協会・みえ歴史ネット、愛知県博物館協議会、静岡県教育委員会・静岡県博物館協会などで体制が整備されている。他に京都市の文化財市民レスキューは地域住民との連携による活動で注目される。

これら全国規模の情報集約と連携のため、独立行政法人国立文化財機構（東海地区は京都国立博物館が担当）で文化財防災ネットワーク推進が図られている（〔文化財防災ネットワーク推進事業 中部・近畿文化財関係者による文化財防災連絡会議, 2016〕）。

和歌山県の事例は〔浜田拓志, 2015.7〕を参照。

¹⁷ 〔平川新, 2014〕

¹⁸ 和歌山県では県教育委員会生涯学習局文化遺産課が被災の想定される沿岸部に立地する社寺に未指定を含む文化財の所在調査（アンケート）を実施し、管理台帳を整備したほか、県立博物館・県立文書館が従前から行っていた民間所在資料保存調査を継承・発展させ、文化庁補助事業「地域に眠る災害の記憶の発掘・共有・継承事業」を実施している。これらの活動は県博物館施設等災害対策連絡会議（2015～）が引き継ぐ形で、調査内容を報告する小冊子（〔和歌山県立博物館, 2015〕〔和歌山県立博物館, 2016〕）の配布や現地学習会を開催して成果を地域住民と共有・還元している。詳細は〔浜田拓志, 2015.7〕を参照。

また、所要1日程度の悉皆調査による所在把握と所蔵家1軒ごとの文書群の保存記録を組み合わせた「宮城方式（宮城資料ネット方式）」（〔平川新・佐藤大介・高橋修・奥村弘, 2014.10〕）は広範囲における文化財の所在を把握し、バックデータを集積して成果を上げている。

¹⁹ ここでは詳述しないが、博物館建設ラッシュ期は、観光事業の勃興期でもあった。とくに飛騨高山は、国鉄（現JR）の「ディスカバー・ジャパン」キャンペーン（1970-76）やその後の観光戦略における主要な人気観光地として発展してきた。また、近年、行政による観光開発が盛んな関ヶ原には、かつて多くの私設館があって、民間による観光客誘致が行われていたようすが伺える。

²⁰ 〔佐藤泰, 2015〕〔津波により被災した文化財の保存修復技術の構築と専門機関の連携に関するプロジェクト実行委員会, 2016〕など。東海地区では、陸前高田市の支援に積極的な名古屋市で展覧会「陸前高田のたからもの」（2016年2～3月、名古屋市博物館）が開催された。

²¹ 〔「震災から復興」指名担う公共施設／博物館や図書館 郷土史として後世に, 2016〕〔揺れに強い構造知る手掛かりに 濃尾地震の建築被害紹介 名古屋で企画展, 2015〕

²² 〔村田真宏, 2016.12〕

²³ 2016年7月実施時に見学。地震によって照明が消えた室内から、予め設定されている避難ルートを実際に通って確認する内容であった。

²⁴ 2015年12月9日実施・見学。神奈川県博物館協会では協会内に防災ワーキンググループを設置し、対策の協議が重ねられている。〔神奈川県博物館協会, 2015.3〕を参照。

²⁵ 〔岐阜県博物館協会中濃部会, [2007]〕

²⁶ 〔文化財に「指定予備群」、地域の宝守れ 京都府が修復助成, 2017〕

表3 岐阜県博物館協会加盟館の閉館状況まとめ

重複または存続

*文末「文献」欄に列記

数字 閉館年
 × 廃絶（現在活動を確認できず）
 ○ 存続
 △ 存続（名称・形態を変更）
 空欄 不明もしくは異称（別称で立項）

館名（五十音順）	所在地（現）	文献（別掲*）	掲載年	閉館	コレクション移管状況など	備考
1 あげ世温泉自然苑の野鳥園	瑞浪市		1969 1967	×		
2 石の博物館	大野郡丹生川村（高山市）	1976 1974		×		「建設進む「石の博物館」丹生川村大橋宣嘉さん」岐阜朝刊 19701102 10面
3 伊藤裕教コレクション	益田郡下呂町（下呂市）	1976 1974		×		70と関連か
4 岩邑小学校郷土室	恵那市		1967	×		恵那市立岩邑小学校は1873開校
5 恵那郷土館	恵那市	1985		×	2014建物現存	資料館めぐり 恵那郷土館」中日朝刊 19770821 10面
6 老田野鳥館	高山市	1985 1976		2008	→東京大学総合研究博物館（寄贈）、山階鳥類研究所（寄贈）	
7 大垣市児童文化センター	大垣市	1985 1976 1974 1969 1967		△		大垣市サイトピアセンター（文化会館・学習館・こどもサイエンスプラザ）は1992開館
8 大塚集古資料館	岐阜市	1985		1988	→国立歴史民俗博物館（1990・93・94購入）	大飛木材株式会社創業70周年記念として1979開館
9 小川栄一コレクション展示室	揖斐郡大野町	1976 1974 1969 1967		×	小川徹古館（自宅）とも岐阜郷土館（1931-43）でも展示→岐阜市歴史博物館	小川栄一は岐阜県文化財調査委員
10 奥美濃郷土館	郡上郡八幡町（郡上市）	1976 1974 1969 1967		×		「城山に奥美濃郷土館 八幡町の武藤隆一さん」岐阜朝刊 19661108 6面 「博物館へ行こう 14 奥美濃郷土館」岐阜朝刊 19770930 8面
11 落合郷土館	中津川市		1967	×		「平田学派の書物1,000冊 中津川の落合郷土館で発見」中日夕刊 19670907 6面
12 笠松中学校校内科学博物館（改築中）	羽島郡笠松町		1967	×		笠松中学校博物館委員会『資料「ナガガキ(化石)の調査・研究」(中)行年不明』笠松町立笠松中学校は1947開校
13 合掌造り生活資料館	大野郡白川村	1985		○		和田家、合掌造り民家園とは別
14 神坂文化資料館	中津川市	1976 1974		×		「神坂文化資料館できる 中津川市」朝日朝刊 19721204 13面
15 上之保村尚古館	武儀郡上之保村（関市）	1985		×		
16 川上村郷土館	恵那郡川上村（中津川市）	1985		×		
17 貴興美術館	郡上郡八幡町（郡上市）	1976 1974		×		
18 菊花石館	岐阜市	1976 1974 1969 1967		×		「山口警子も訪れる 菊花石館」毎日朝刊 19660313 16面 「菊花石館をご訪問 三笠宮ご夫妻」岐阜朝刊 19741001 10面
19 岐阜県ラン科植物園	岐阜市		1969	×		
20 岐阜公園水族館	岐阜市		1974 1969 1967	1999	→上野動物園、黒谷自然公園（川辺町）閉鎖）など	「岐阜市 岐阜公園水族館の悩み 魚荒しに手焼く」毎日朝刊 19570526 5面 「岐阜市の岐阜公園水族館の魚や動物、引き取り先決まる」朝日朝刊 19990612 25面 公園再整備に伴い閉鎖
21 岐阜公園（淡水魚水族館・小動物園）	岐阜市	1985 1976		1999 か		1950開館 「日本初淡水魚水族館」と紹介
22 岐阜公園鳥類センター	岐阜市		1974 1969 1967	1999 か		
23 岐阜大学農学部植物園	各務原市か		1967			
24 岐阜大学農学部付属植物園	各務原市	1976 1974 1969				23と同じ
25 岐阜プラネタリウム	岐阜市	1985 1976 1974 1969 1967	1984			「創立25周年の岐阜プラネタリウム」岐阜朝刊 19830401 16面 「岐阜プラネタリウム 27年の歴史に幕取り壊し 市制百年公園に」岐阜朝刊 19851219 15面
26 教育資料館	関市	1976 1974		×	池村教育資料館	「池村兼武 動植物の標本3000点」中日夕刊 19610418 5面 池村兼武 池村教育資料館長」中日朝刊 19761224 13面
27 郷土玩具館	高山市	1985 1976 1974		○	高山郷土玩具館	
28 郡上工芸研究所	郡上郡八幡町（郡上市）	1985		△	1952郡上郷土芸術研究所→1958郡上工芸研究所→1980南足柄工芸研究所（研究室とも）	宗廣力三（1914-89）
29 郡上染織史料館	郡上郡八幡町（郡上市）	1976 1974 1969		×	→郡上八幡博覧館、岐阜県美術館	郡上染織資料館か 宗廣力三が1968開館
30 防人センター・忍者の里	不破郡関ヶ原町か	1976		×		「防人センター・忍者の里 実物大の零戦の模型 展示 マニアが100万円かけてつくる」中日朝刊 19760110 13面
31 軍事博物館と忍者の里	不破郡関ヶ原町	1985		×		30と同じ
32 国府町歴史・民俗資料館	高山市	1976		△	高山市に合併後、所蔵庫として使用	「国府町歴史民俗資料館 国府の民俗館移築 沼田で地盤沈下 完成わずか3年足らず」毎日朝刊 19770624 13面
33 国府町郷土館・民俗館	吉城郡国府町（高山市）	1985				32と同じ
34 後藤植物研究所展示室	関市	1976 1974 1969 1967	2006 か		白銀登落荘とも →琵琶湖博物館（魚類標本を寄贈）	「後藤宮子 長良川の魚類標本114万匹 新収納庫で整理開始」読売朝刊 19921230 17面 「後藤宮子さん 標本収蔵庫 白銀登落荘と命名」朝日朝刊 19930314 22面 後藤宮子 白銀登落荘館長」読売朝刊 19960109 23面 「関市の後藤宮子さん 琵琶湖博物館に魚標本60万点寄贈」岐阜朝刊 20061014 24面
35 三郷（みさと）中学校郷土室	恵那市		1967	×	1979恵那市立恵那西中学校に統合	恵那市立三郷中学校は1947開校か
36 自然保護資料室	岐阜市	1976 1974		×		
37 下保森林総合展示室	大野郡丹生川村（高山市）	1985		△	ぎふ森林文化センター（岐阜市、1994～）か	「岐阜市 ぎふ森林文化センターが完成」読売朝刊 19941213 26面
38 下野郷土館	恵那郡福岡町（中津川市）	1985 1976 1969		×		
39 春慶会館	高山市	1976		2014	一部売却か	長瀬清が私設展示館として1973開館 「高山市神田町の春慶会館跡地に建設するサービス付き高齢者向け住宅（サ高住）の起工式」岐阜朝刊 20150428 飛騨27面
40 飛騨高山春慶会館	高山市	1985		×		39と同じ
41 白木菊花石館	岐阜市	1985		×		
42 青柳記念館	中津川市	1985 1976 1974 1969 1967	2015		中津川市蔵（一部寄託） 中津川市苗木邊山史料館で保管	1966閉館、2009より休館 新館構想あり
43 関ヶ原大爬虫類センター	不破郡関ヶ原町		1974	×		「関ヶ原大爬虫類センターあす開館」岐阜朝刊 19711029 12面
44 関ヶ原縄文遺跡と考古館	不破郡関ヶ原町		1967			45・46と同じ
45 関ヶ原の縄文遺跡と考古館	不破郡関ヶ原町		1969			44・46と同じ

館名(五十音順)	所在地(現)	文献(別掲*)	掲載年	閉館	コレクション移管状況など	備考
46 関ヶ原縄文遺跡考古館	不破郡関ヶ原町		1976 1974	1978か		「関ヶ原縄文遺跡考古館 雪に無残廃屋同然 個人管理もう限界」岐阜朝刊 19780423 13面
47 蘇原公民館郷土室	各務原市		1974 1969 1967		各務原市中央ライフデザインセンター(1993~)か	「各務原市蘇原公民館600冊の本購入」中日夕刊 19810714 6面
48 谷合公民館郷土室	山県郡美山町(山県市)		1976 1974 1969 1967	1982か		「美山町谷合公民館完成」中日朝刊 19820129 16面
49 谷汲植物園	揖斐郡谷汲村(揖斐川町)		1976 1974 1969 1967		谷汲ゆり園(1996~)か	「谷汲村に東海3県最大の百合園「谷汲ゆり園」オープン」中日朝刊 19960622 20面
50 飛山民俗館	益田郡金山町(下呂市)	1985	1976 1974	×		
51 日本自動車館	大野郡宮村(高山市)		1976 1974	×		
52 日本歴史館	可児市	1985		2010か	看板表記によると可児町(1955-82)期開館 2015看板現存	「ぶらっとミュージアム 日本歴史館」毎日朝刊 19930617 17面 「日本歴史館(可児市) 可児郷土歴史館」岐阜夕刊 19970716 1面
53 濃飛甲冑研究所展示室	岐阜市		1976 1974 1969	×	吉田ライブラリー併設 よろいの館吉田濃飛甲冑研究所とも →岐阜市歴史博物館(一部寄贈)	吉田幸平(1919-2013) 歴史文化センター建設準備委員会『吉田幸平博士博物館構想及び自録』1975 「吉田幸平さん 吉田ライブラリーを開設 専門書約2万冊を有料で貸し出し」中日朝刊 19860802 14面 吉田幸平『奇人山上八郎伝』よろいの館吉田濃飛甲冑研究所 1992.4
54 野皇甲冑美術館	高山市		1976 1974	×		
55 羽島中学校郷土室	羽島市			1967	×	羽島市立羽島中学校は1947開校
56 歯の博物館	岐阜市	1985		2010	岐阜県歯科医師会が運営 1982開館 岐阜県博物館に寄贈の照会あり(受領なし)	「歯の博物館建設へ岐阜市口腔保健衛生センター内に」岐阜朝刊 19800119 11面 「歯の博物館建設 完成へ着々」朝日夕刊 19810408 6面 「岐阜市 歯の博物館」中日朝刊 19820501 13面 「『歯の博物館』6日閉館 30年近く『歯と体の健康』啓発続ける」岐阜朝刊 20100129 18面
57 飛騨御殿	高山市	1985		×		
58 飛騨郷土館	益田郡下呂町(下呂市)		1969 1967	△	1963開館 小坂郷土館(下呂市小坂町湯屋) (参照)1972中部山岳考古館→1985峰合遺跡考古館→1995下呂ふるさと歴史記念館(下呂市森)	「下呂の飛騨郷土館完成 来月公開」毎日朝刊 19630320 12面 「文化財保護 文化遺産に防火装置 永保寺と飛騨郷土館の合掌づくり」岐阜朝刊 19641116 10面
59 飛騨工芸館	高山市	1985		×	1975開館	「飛騨民俗村・飛騨の里 飛騨工芸館無料で開館」朝日朝刊 19750514 17面 「飛騨工芸館がオープン」毎日朝刊 19750515 11面 「飛騨工芸館 歌人 福田夕咲の実家 飛騨工芸館に衣替え 来月上旬オープン」中日夕刊 19750307 12面
60 飛騨工芸館	高山市	1985 1976		1988か	1975開館	「飛騨工芸館 文学と民芸品を合わせ紹介 工芸館」毎日朝刊 19750407 13面 「高山 飛騨工芸館半壊」朝日夕刊 19880206 7面
61 飛騨集古館	大野郡丹生川村(高山市)		1976 1974	×	1970開館	「改装した飛騨集古館 あすオープン」岐阜朝刊 19700425 13面 「飛騨集古館 江戸明治時代の農具を集める」中日朝刊 19700927 19面
62 斐太彦天文處	大野郡清見村(高山市) 岐阜市	1985		△	坂井義雄が旧陸軍気象観測所を転用して岐阜金華山天文台(岐阜市)設置(1951-58) 1972開館→1986飛騨プラネタリウム(公営) →小川天文台(長野県小川村)	「天文台 軌道に乗る斐太彦天文処 清見村夏夏 休みに同好会発足」中日朝刊 19780623 13面 「坂井義雄 斐太彦天文処」中日朝刊 19810825 11面 「清見村がプラネタリウム建設 斐太彦天文処の横に」中日朝刊 19850806 14面
63 飛騨風物館	高山市	1985 1976		×	1973開館	「『飛騨風物館』開館」朝日朝刊 19730930 13面
64 飛騨民俗館	高山市		1969 1967	△	1959開館 飛騨の里(1971~)と併せて、飛騨民俗村・飛騨の里 重要有形民俗文化財・飛騨のそりコレクション(1960指定) 飛騨の山村生産用具(1975指定)あり	「飛騨民俗館 いまどき珍しい塩船 ジュラ紀の化石 寄贈される」毎日朝刊 19591125 5面 「飛騨民俗館 『博物館法』適用の施設指定を申請」毎日朝刊 19601117 5面 「飛騨民俗館が博物館並に 文部省から指定」朝日朝刊 19610114 11面 「養蚕方式を重んずる資料に 飛騨民俗館」岐阜朝刊 19630121 5面 「飛騨民俗館20周年式」岐阜朝刊 19790630 16面
65 飛騨民俗資料館	吉城郡古川町(飛騨市)	1985 1976		1988		「飛騨民俗資料館 古川町井之口さん」朝日朝刊 19740408 13面 「私財投じて15年 古川の飛騨民俗資料館閉館」中日朝刊 19881029 17面
66 洞戸村民俗資料館	武儀郡洞戸村(関市)		1976 1974	×		
67 松枝小学校民俗資料館	羽島郡笠松町	1985		×	笠松町歴史民俗資料館→2015笠松町歴史未来館	笠松町立松枝小学校は1894開校
68 美山民俗資料館	山県郡美山町(山県市)		1976 1974	△	2003山県市歴史民俗資料館・分室(山県市葛原郷土研修室、山県市みやまジョイフル倶楽部、山県市谷合郷土研修室)	
69 大和民俗資料館	郡上郡大和村(郡上市)	1985		×	1977明宝歴史民俗博物館	2004郡上郡7町村が合併、郡上市に3と関連か 「付知峡博物館を着工」岐阜朝刊 19671209 7面
70 祐教コレクション付知峡博物館	恵那市		1969	×	1968開館	「付知峡博物館 8月に開館」岐阜朝刊 19680602 15面
71 養老植物教材園	養老郡養老町		1967	×	養老公園の竹類園	竹研究者・坪井伊助収集の「竹類標本園」
72 陸上自衛隊岐阜駐屯地 美術史料館	岐阜市か		1967	×		陸上自衛隊善通寺駐屯地資料館(香川県善通寺市)は2006より一般公開
73 陸上自衛隊岐阜駐屯地史料館	岐阜市		1974 1969			72と同じ

出典(順不同) ;
 宗廣力三 : 東文研アーカイブデータベース (HP: 東京文化財研究所) <http://www.tobunken.go.jp/materials/bukko/9803.html> (2017年1月25日閲覧)
 菊池昌治, 郡上軸再興の道 (現代構造研究所, 1991, テキスタル・クリエーション[1]: 創造の美学, 繊維工業構造改善事業協会)
 ※中小構構: 経営力の強化: テキスタル・クリエーション[1]: 創造の美学 <http://www.smrj.go.jp/keiei/chosa/seni/archives/045297.html> (2017年1月25日閲覧)
 〔随記〕養老公園・竹類園 (ブログ: 「岐阜の自然者」をめぐる旅) aquatottoday.hatenadiary.jp/entry/2016/09/23/000200 (2017年1月26日閲覧)
 日本公開天文台協会公開天文台白書編集委員会, 2007, 公開天文台白書, 2006, 兵庫県立西はりま天文台公開 p9
 坂井義人, 2002, 岐阜金華山天文台・坂井義雄の思い出 (宇宙会報 17, 2002.12).
 ※小川天文台の歴史 (5) (HP: 小川天文台) http://www.bekkoame.ne.jp/masa-ki/ogawa_tenmondai/histry/05.html (2017年1月26日閲覧) に転載
 坂井義人, 2015, 岐阜金華山天文台の活動意義と坂井義雄 (第5回天文台アーカイブプロジェクト報告会集録 (2015) 5, 2015.1)
 下呂ふるさと歴史記念館 (縄文公園) (HP: 下呂市) http://www.city.gero.lg.jp/departmen1/top/node_1069/node_1155/node_27591 (2017年1月26日閲覧)
 「飛騨高山春慶会館」, 41年の歴史に幕 (ホームページ: 飛騨経済新聞) <http://hida.keizai.biz/headline/677/> (2017年1月26日閲覧)
 編集余記「後藤コレクション寄贈について」(岐阜新聞2006.11.02)
 小川貴司, 2005, 小川栄一日誌に見る岐阜郷土館, 戦時下の博物館活動について (岐阜市歴史博物館研究紀要 17, 2005.3)
 老田野鳥館から標本・図書受入 (山階鳥研NEWS 219, 2008.9)
 ※老田野鳥館から標本・図書受入 (HP: 山階鳥類研究所) http://www.yamashina.or.jp/hp/wadai/backnumber/2008_9_04.html#03 (2017年1月25日閲覧) に転載
 松原始, 老田敬吉氏収集の鳥類標本 (HP: 東京大学総合研究博物館) http://www.um.u-tokyo.ac.jp/web_museum/ouroboros/v17n3/v17n3_matsubara.html (2017年1月25日閲覧)